より、そう、ちから。
東北電力

発電所だより 2026年10月号

東北電力㈱女川原子力発電所総務部広報グループ
女川町塚浜字前田1　電話0225-53-3111
2026年10月発行

【女川原子力発電所における死亡災害の発生について】

１０月９日、女川原子力発電所構内において、特定重大事故等対処施設工事に従事していた協力会社の作業員１名がお亡くなりになられました。お亡くなりになられた方のご冥福を心よりお祈りするとともに、ご遺族の皆さまに謹んでお悔やみ申し上げます。

現在、災害発生時の状況や原因について詳細な確認を進めておりますが、お亡くなりになられた方はコンクリート打設後の洗浄作業に向かう際、足場上の安全通路を歩行中に高さ約２５メートルから落下されたものと推測しております。

私たちは、安全を最優先として発電所運営に取り組んでまいりましたが、このような重大災害により尊い命が失われたことを極めて重く受け止めております。

このような痛ましい事故を二度と起こさないという強い覚悟を、女川原子力発電所で働く全員で誓うべく、以下の４つの対応を緊急的に実施いたしました。

取り組み	概　　要
1.緊急安全集会（１０／１３）	▶発電所関係者を集め、本事象の周知を行うとともに、当社原子力本部長（常務）および発電所長の緊急メッセージ伝達と安全特別教育を実施
2.安全対話（１０／１３～１０／１４）	▶当社・各協力企業内の小集団単位（グループ、作業班等）で対話を実施
3.決意表明（１０／１３～１０／１４）	▶当社・各協力企業の従業員一人ひとりが、自らの決意を直筆で表明
4.危険箇所臨時パトロール（１０／１３～１０／１５）	▶仮設足場の総点検を実施 ▶重傷災害に直結する五態様災害（墜落・感電・伐採・重量物・重機）の発生防止に向け、特に墜落・転落に重点を置いた確認を実施

今後、災害原因の徹底究明と再発防止対策の立案・水平展開を行い、重大災害の根絶に向けて全力を尽くしてまいります。

また、発電所で働く一人ひとりが、「自分だけは大丈夫」という思い込みを捨て、基本ルールの遵守と危険予知を徹底するとともに、危険箇所・危険行為に『気づくこと』、それらを『周りに話す、相談すること』、それを聞いた仲間が『直すこと』を確実に実践してまいります。

地域の皆さまをはじめ、関係する皆さまに多大なるご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

当社といたしましては、今回の事案を重く受け止め、このような事故を絶対に発生させないよう、再発防止の徹底に努めてまいります。


約 2,000 名が緊急安全集会に参加


発電所長による緊急メッセージ


協力企業による決意表明


当社社員による決意表明


参加者全員による安全標語の唱和


各職場の小集団による安全対話


各職場の小集団による安全対話


仮設足場の総点検


仮設足場の総点検


危険箇所臨時パトロール

《使用済燃料乾式貯蔵施設第１棟目の着工および運用開始時期の見直しについて》

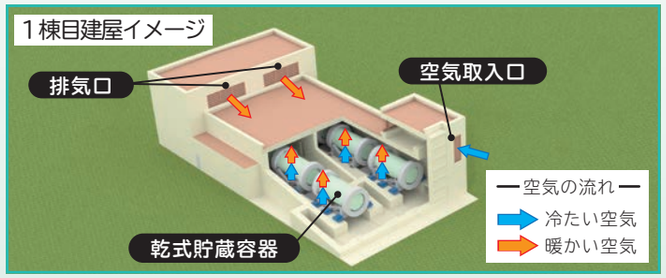
当社は、女川２号機における使用済燃料乾式貯蔵施設第１棟目について、**着工時期を２０２６年９月から２０２６年１２月に、運用開始時期を２０２８年３月から２０２８年１２月にそれぞれ見直すこととしました。**

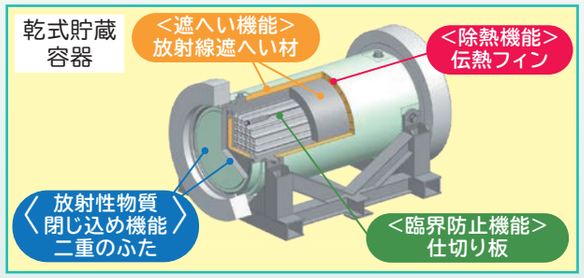
これは、当施設に係る「設計及び工事計画認可」の審査における説明および認可に向けた手続きに、さらに一定の期間を要すると判断し、着工時期を見直したものです。

また、着工時期の変更に伴い使用済燃料を収納する乾式貯蔵容器の製造工程について精査した結果、運用開始時期についても見直す必要があると判断しました。

引き続き、設計及び工事計画認可の審査に適切に対応してまいります。

	従　来	見直し後
着工時期	２０２６年９月	**２０２６年１２月**
運用開始時期	２０２８年３月	**２０２８年１２月**





使用済燃料乾式貯蔵施設の概要はこちらからご覧いただけます

《女川２号機運転計画を踏まえた所内常設直流電源設備（３系統目）の工事完了時期見直しについて》

当社は、特定重大事故等対処施設および所内常設直流電源設備（３系統目）の設置に関する経過措置が規定された関係規則が改正されたことを踏まえ、女川２号機の運転計画を見直した結果、**次回の定期事業者検査の開始時期を２０２６年１２月から２０２７年７月に変更することとしました。**

これに伴い、**所内常設直流電源設備（３系統目）の工事期間も改めて精査した結果、工事完了時期を２０２８年３月から２０２８年８月に見直すこととしました。**

なお、特定重大事故等対処施設の工事完了時期（２０２８年８月）については変更ありません。

所内常設直流電源設備（３系統目）は、万一全ての交流電源を失った場合でも、重大事故等の対応に必要な設備に直流の電気を供給するための設備です。

女川２号機には、既に所内常設直流電源設備の１系統目および２系統目が設置済みであり、現時点でも必要な安全性は確保されていますが、さらなる信頼性向上を目的に設置するものです。

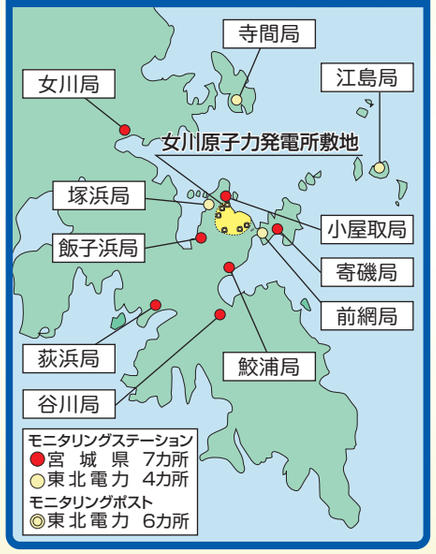
引き続き、安全確保を最優先に、着実な工事の遂行に努めてまいります。

	従　来	見直し後
次回定期事業者検査開始時期	２０２６年１２月	**２０２７年７月**
所内常設電源設備（３系統目）工事完了時期	２０２８年３月	**２０２８年８月**

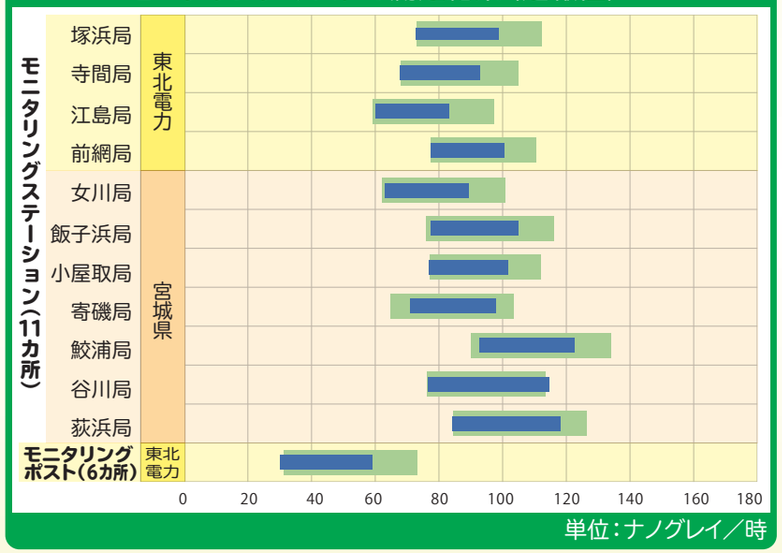
《発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングステーション※1やモニタリングポストで測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。２０２６年９月の測定結果は以下のとおりで、発電所周辺の放射線量は安定しており、発電所の運転による有意な変化はなく、環境への影響はありません。

モニタリングステーションとモニタリングポストの設置地点



2026年9月のモニタリングステーションとモニタリングポストの測定結果（速報値）※2



単位：ナノグレイ／時

※１モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※２モニタリングポストの測定値は、検出器の種類が異なるため、宇宙線（宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線）の影響分が含まれないことから、モニタリングステーションの測定値より20～40ナノグレイ/時程度低い測定値となっています。

